

◆目指す姿を共有する◆

新潟県コミュニティ・スクール（以下、CS と略）研修会が7月18日（木）に妙高市の新井ふれあい会館で開催されました。県下ほぼすべての市町村から参加者があり、新潟県でCSへの関心が高まっていることがうかがえます。弥彦村小中学校運営協議会からも2名の委員が参加しました。参加したお2人から感想をまとめていただきました。



弥彦村学校運営協議会
会長 宇田隆幸さん
(新潟国際情報大学教授)

研修会では、①妙高市の小学校3校による取組紹介、②演題「地域と学校の連携・協働の推進について」にて文科省神田様の講演を拝聴した後、③CS導入期のグループ別情報交換に参加しました。

②では、CSの定義・仕組み・法的根拠・現状などを拝聴した後、CS制度と仕組みを理解する事に関して、「CSを自分の言葉で語れるか」との問いがございました。導入期の私たちには、自己研鑽はもとより、弥彦村の皆様へCS活動をご理解いただくために「自分の言葉で語れる」が不可欠だと感じました。③では、CS導入期のグループに参加したので、導入期の不安・最初に行うことは何か・目標設定など、導入期における意識が、同じであることを共有しました。

CS導入期の方針として、「何を目指すのか（どんな児童・生徒に育てたいのか）」「これまでの地域活動を基盤にする」「これまでの学校支援を基盤にする」「これまでの地域と学校の関係を継続・発展させる」「できるところから始める」の大切さを実感いたしました。この点は、弥彦村のCS推進方針として適応できると考えます。

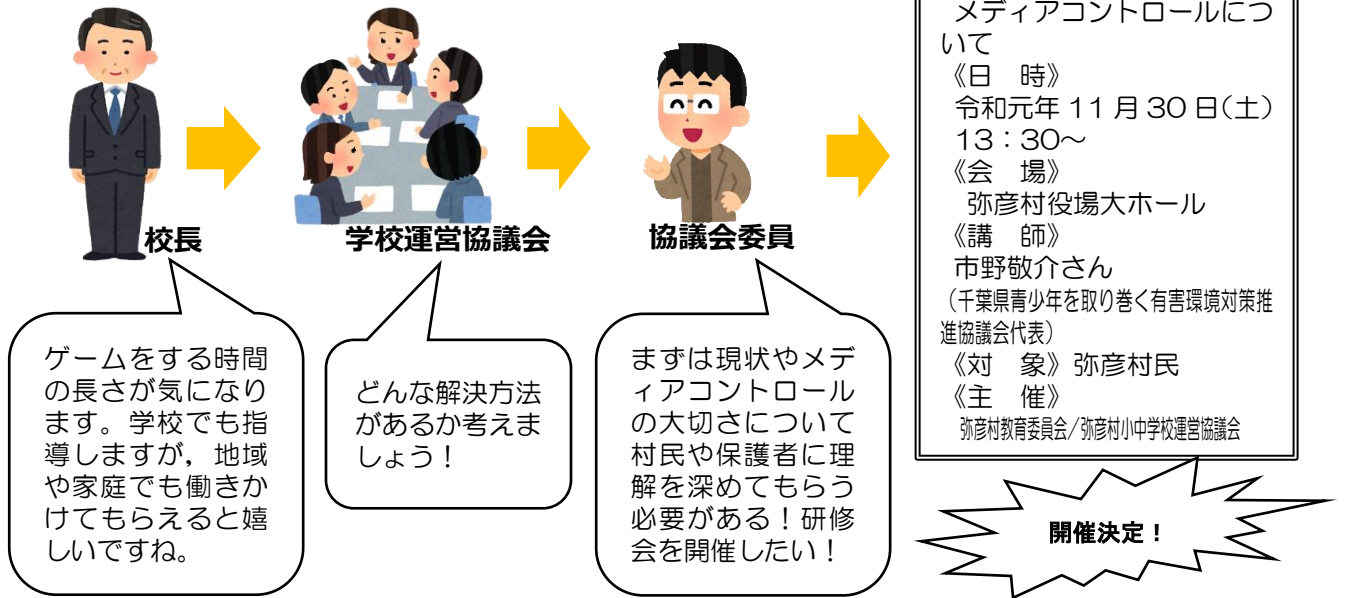


弥彦村学校運営協議会
委員 渡辺 晃さん
(民生委員 麓2区)

開会式では、学校を核としたグローバル化（地域力の強化）や、一律ではなく地域にあった学校運営協議会のスタイルが大切であることが強調された。資料にはない貴重な実践報告であるグループ別情報交換会では、メンバー全員の名刺を各自の手前に並べて真剣に話し合った。弥彦村の協議会は地域のいろいろな職種やグループで構成されているが、PTA 役員が会員になっていない地域もあった。今後、弥彦村で活かせることは、あいさつで終わるのではなく「あいさつ＋一言」が言えるようにしていくこと。協議会の説明をしても何年か経つと忘れてしまうので継続して住民説明会が必要であること。これらのことを参考にしていきたい。

◆学校運営協議会が目指す姿◆

(1) 地域教育力の強化



5月に実施された第1回目の会議で、中学校の河井校長から「ゲーム時間の長さが問題である」との発言があり、小学校の石黒校長もその発言に賛同しました。これを受けて、委員と事務局で何かできることはないか検討しました。そこで、教育委員会へ働きかけ、教育フォーラムでメディアコントロールについて取り上げて、村民全体へ理解を促すこととしました。

(2) 学校経営方針の承認・意見

学校運営協議会の役割の1つに「学校経営方針の承認・意見」があります。校長の方針を承認するということは、地域の代表である協議会委員にも学校運営に対して責任が生じることを意味します。学校運営で気づいたことがあれば、積極的に意見を述べて校長の学校運営を支えていくことが大切な役割です。

